

ご挨拶 -Top Message-

富士通フロンテックグループは、「ふれる・つなぐ・かえる」をコンセプトに、「お客様最前線のDX企業」を目指していきます。



代表取締役社長 川上 博 丞

持続可能な環境・社会・経済の実現に向けて

2019年は、台風19号が日本各地に甚大な被害を及ぼしました。そして2020年は、新型コロナウイルスの世界的流行という21世紀における未曾有の災害に見舞われ、外出自粛による経済の停滞や医療施設の逼迫など様々な問題が発生し、「環境」だけでなく、「社会・経済」をいかに持続可能に発展させていくのかが問われています。

富士通フロンテックグループは、気候変動への適応や生物多様性保全などの環境への取り組みを含め、これらの課題解決に貢献するため、サステナビリティ経営を推進していきます。

当社グループは、これまで培ってきたハード製品をベースとしたソリューション・サービスを起点に、金融・流通・公共・医療・物流・モビリティなどの市場において、お客様の多種多様なニーズに応じてきました。Afterコロナの世界においては、例えば金融機関における「クイックカウンター」や手のひら静脈認証、RFIDなど非対面・非接触を実現するこれらのソリューションおよびユニーク技術は今後ますます世の中のニーズが大きくなると予想されることから、持続可能な社会・経済の発展に寄与できると考えています。

さらなる成長とSDGsの達成に貢献するため、「ふれる・つなぐ・かえる」をコンセプトに、当社グループが提供する「もの・コト」に触れることで人と企業、人と社会の新たなつながりが生まれ、より暮らしやすく安心安全な社会を実現する「お客様最前線のDX企業」を目指していきます。

重要な環境課題への取り組み

当社グループでは、事業活動に伴う天然資源の使用など環境に与える影響を定期的に評価し、特に重要と判断した環境課題を決定し、その解決策として「富士通フロンテックグループ環境行動計画」を策定・実践することで、持続可能な地球環境の保全に努めています。

「第9期環境行動計画」（2019～2020年度）では、「気候変動」、「資源循環」、「サプライチェーン」および「SDGs」の4つの取り組みを計画しました。「気候変動」においては事業活動におけるGHG排出量を2013年度比で8%以上削減。「資源循環」においては新製品の資源効率を2014年度比で20%以上向上および廃棄物発生量を2012～2014年度平均比で27%以上削減。「サプライチェーン」においては製品の使用時電力によるCO₂排出量を2013年度比で14%以上削減。「SDGs」においては「SDGs貢献ソリューション」の開発・提供やサステナビリティサイトでのESG情報の発信および生物多様性保全をはじめとする「良き企業市民としての活動」などの指標を掲げ、全従業員が一丸となって活動を推進しています。

また、2050年までに自らのCO₂排出ゼロエミッションを掲げた富士通グループの中長期ビジョン『FUJITSU Climate and Energy Vision』では、Phase 1（2013年比 -14%）において、当社グループの国内は、燃料電池発電システムなどの導入により順調に推移しており、2021～2030年のPhase 2（2013年比 -33%）においては、再生可能エネルギーの導入を推進し、グループ全体での達成を目指します。